「小児期の成人病危険因子の効果的検出方法の開発に関する研究」の総括

大国真彦

要約：本研究班では，小児成人病対策のスクリーニング実施方法の開発，小児成人病対策の予防指導法の開発，その後のフォローアップという観点から成人病予防システムに関する基本的検討を行なった。

見出し語：小児成人病，成人病危険因子，高コレステロール血症，高血圧，肥満，食習慣，体力テスト，基準値

分担研究者の大国真彦は，小児成人病予防検診におけるアンケートの意義についての検討と題して，小児成人病予防検診を行うに際してのアンケートを用いた，より効率の良い検診のあり方について検討を行った。その結果，ハイリスク児のみを対象とした場合にはアンケート調査は有用であるが，アンケート調査のみのスクリーニングではもれが多く，アンケート調査の精度改良も重要であると報告した。

研究協力者の河合忠は，臨床検査の正常値に関する研究と題して，小児においては成人と異なり多くの検査項目について発育に伴う変動があるため，臨床の現場における正常値または臨床参考値が必要であると指摘した。

研究協力者の坂本元子は，食物摂取状況調査表の開発についてと題して，簡便でしかも精度の高い食物摂取状況調査について検討を行い，日常の食習慣を食品群毎に1食量を決め，該当する量にマークをつけてもらい，それを数量化する方法を試作し報告した。

研究協力者の青木純一郎は，小児の体力測定－現状と今後の課題－と題して，小児の日常生活の心拍数を記録すると，活動的か非活動的かによって140拍/分 以上の出現率に大きな差があり，それが体力水準の差をもたらしていると報告した。

研究協力者の大木師磋生は，幼保園児の生活状

日本大学医学部小児科学教室

況調査の考察と題して，カウプ指数18以上の園児には母親が就労している者が多いとし，また，園児の血液生化学検査については希望する保護者が多かったとしている。

研究協力者の加藤裕久は，唐津東松浦郡での成人病予防学童検診５年間の結果と題して，唐津地方での成人病予防学童検診の過去５年間の結果をまとめた。それによると，持続的高血圧児は0.8％であり，血圧平均値は年度による変動があり，また，肥満の頻度は全対象の５％，高コレステロール血症はリスク群の８～13％であった。そして，動脈硬化家族歴を有する群のなかには血圧，体重，身長，肥脂厚などが有意に高値である群を認めたと報告した。

研究協力者の堺薫は，乳幼児の血圧に関する研究と題して，乳幼児の血圧をリヴァロッチ型血圧計，ダイナマップ型血圧計で測定し，それぞれの年令別性別の正常値，乳幼児の尿中食塩排泄量，新生児の血圧と赤血球膜透過性について検討し，血圧の調節因子としてナトリウムは勿論のこと，カルシウム，マグネシウムについても注目すべきであると報告した。

研究協力者の山内邦昭は，小児成人病予防検診システムの検討と題して，学童用の小児成人病予防検診システムに基いて①検診方法別による成績の比較（抽出法と全員法の比較）②受診承諾の可．否をどのようにして得るか，その形式の検討③家族調査票の内容の３点について複数地区で試験的に検診を行なった結果を報告した。

研究協力者の藪内百治は，小児成人病の危険因子検出法の検討と題して，成人病危険因子の１つである高コレステロール血症者の適切な検出時期の検討のため新生児期，幼児期，学童以上の各時期で集団検診を行い，検査の簡便性，コスト，発見後の管理法などの検討から幼児期もしくは学童期以後の実施が適当であると報告した。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:本研究班では,小児成人病対策のスクリーニング実施方法の開発,小児成人病対策の予防指導法の開発,その後のフォローアップという観点から成人病予防システムに関する基本的検討を行なった。